

# セル苗を利用したイチゴの定植時マルチ栽培

福島県農業試験場 いわき支場

平成12～14年度福島県農業試験場試験成績概要

分類コード 03-07-18290000

部門名 野菜－イチゴ－作型・栽培型－作業技術

担当者 石井睦美・常盤秀夫

## I 新技術の解説

### 1 要旨

イチゴ栽培において、マルチ張り作業は定植後約1ヶ月後に行う。この作業は小さな穴から茎葉を引き出す作業であり、迅速かつ慎重に作業する必要がある、負担が大きい。

そこで、セル苗を利用し、定植時にマルチ張り作業を行う栽培法を確立した。

- (1) 定植時マルチ栽培では、初期生育が優れる。収量は慣行並み～やや増加する。(図1)
- (2) 定植時マルチ栽培では、マルチ張りに要する時間が慣行栽培に比べ約4分の1に短縮される。(表1)
- (3) 定植時にマルチを張ることにより、保温開始までの期間、地温及び土壌水分が高く保持される。(図2、図3)

### 2 期待される効果

- (1) マルチ張り作業時間が短縮され、作業に伴う肉体的精神的負担が軽減される。また、茎葉の引き出し作業に伴う花房折れ等、苗の損傷がなくなる。
- (2) マルチにより土壌水分が保持され、灌水に要する労力が軽減される。

### 3 適用範囲

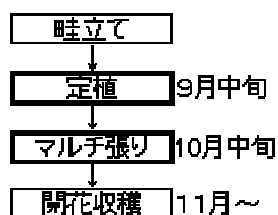
県内全域

### 4 普及上の留意点

- (1) 作型は促成栽培とする。
- (2) 品種は「女峰」「とちおとめ」。
- (3) 定植から保温開始までの土壌水分は、pF1.8を目安に管理する。

## II 具体的データ等

### 慣行の栽培



### 定植時マルチ栽培

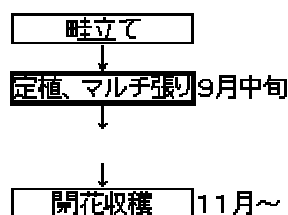
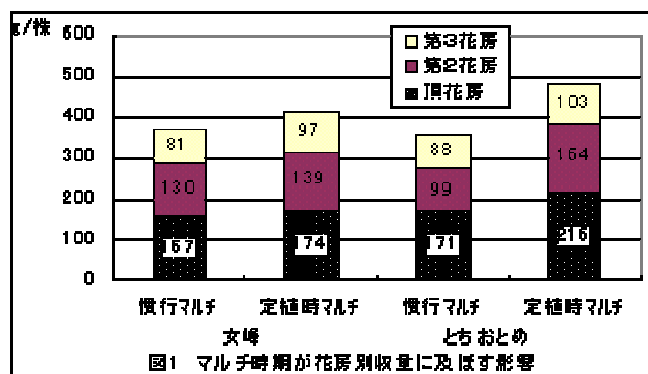


表1 マルチ張りに要する作業時間

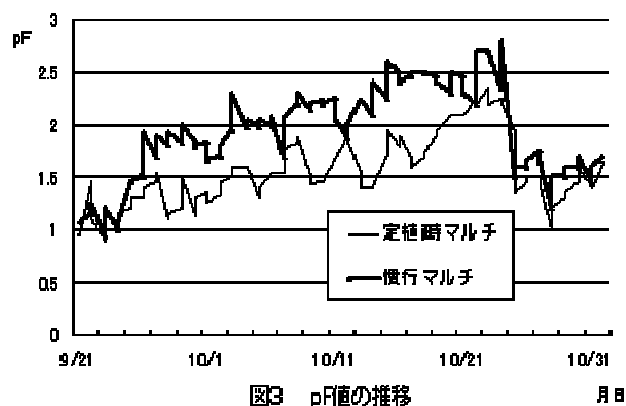
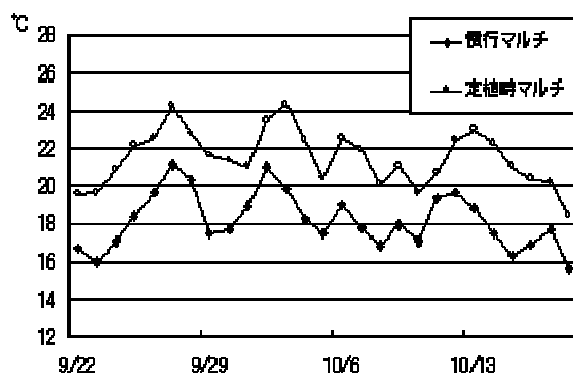
| マルチ方法  | h/10a |
|--------|-------|
| 慣行マルチ  | 30.2  |
| 定植時マルチ | 7.5   |

表2 灌水状況(平成12年9月21日～10月24日)

|        | 灌水した<br>日数(日) | 灌水回数<br>(回) | 灌水量<br>( $\text{kg}/\text{株}$ ) |
|--------|---------------|-------------|---------------------------------|
| 慣行マルチ  | 26            | 38          | 9.7                             |
| 定植前マルチ | 12            | 12          | 5.9                             |



定植日：9月21日  
 マルチ張り：定植時マルチ区9月21日  
 慣行マルチ区 10月23日  
 保温開始：10月24日～



### Ⅲ その他

#### 1 執筆者

石井睦美・常盤秀夫・高橋 徹

#### 2 主な参考文献・資料

なし